

ムーサー・トルキスターニー 『偉大なるトルキスタンの災厄』について

清水 由里子

報告者は20世紀前半期、特に1930年代の東トルキスタン（新疆）におけるウイグル人の文化・教育的活動及び民族意識形成のプロセスに注目して研究を進めている。本発表では、ムーサー・トルキスターニー Mūsā Turkistānī の『偉大なるトルキスタンの災厄』 *Ulugh Turkistan Faja'asi* を取り上げ、その著者及び著作を時代背景とあわせて分析し、本書の史料価値と今後の東トルキスタン研究における利用の可能性について考察する。

著作および本書の構成と叙述傾向について

『偉大なるトルキスタンの災厄』は1981年にサウジアラビアのメディナで出版された。本書の記述に従えば、著者ムーサー・トルキスターニーは1904年、フェルガナのアンディジャンで宗教的な家庭に生まれ、1919年に中等学校を卒業した後、フェルガナにおいてソ連支配への抵抗運動に従事した。1931年に東トルキスタンでトゥルク系ムスリムの反乱が起こった後は、著者も民族独立運動に参加し、カシュガルで活動を行ったが、1934年に東トルキスタン共和国が崩壊した後はヒマラヤを越えてカシミールに逃亡した。後にサウジアラビアに渡り、執筆活動を続けてきたとされる。

現在の所、本書以外に著者の活動を特定できる史料はない。しかし東トルキスタン共和国の独立運動に直接関わったとされる人物の回想録に著者とおぼしき人名が見受けられるほか、新聞等の同時代史料、本書と内容の整合性が確認できることなどから、当時著者が実際にカシュガルに滞在していたこと、また彼が東トルキスタン共和国政府の活動にも深く関わっていたことは確かであると考えられる。

本書では「偉大なるトルキスタンで起った血塗られた不幸を歴史にとどめること、我らが宿敵ロシア人と漢人達が偉大なるトルキスタンのムスリム達に行った圧政を白日の下に晒すこと」が執筆目的として提示されており、著者の実体験の回想に基づく同時代の東西トルキスタンに関する歴史叙述が中心となっている。全体的な構成としては、上・下巻の二部からなっており、第一巻ではフェルガナを主とする西トルキスタンにおける諸事件が、続く第二巻ではカシュガルを中心とする東トルキスタンにお

ける諸事件が叙述されている。(一巻は未入手)二巻では、序文とヤークーブ・ベグ時代の歴史叙述を除き、著者の同時代史の回想が大半を占め、1931年に始まるコムル反乱と東トルキスタン各地における反乱の状況、カシュガルにおける共和国樹立と崩壊の過程、カシミールへの逃亡の顛末が記されている。叙述傾向としては、著者の主観に基づく歴史観の叙述のようなものは少なく、発生した出来事を時系列的に記述するというスタイルが採られている。

本書の資料的価値と東トルキスタン研究における利用の可能性

まず本書は1931-33年のカシュガルにおける状況を窺いしることができる稀少な史料の一つである。筆者は1931年から1934年までカシュガルに滞在しており、その時期の彼らの活動やカシュガルの全体的な状況について記録を残している。その中には東トルキスタン共和国成立に際し、その母体となったと言われる独立協会 *Istiqlāl Jamā'ati* の活動の様相やカシュガル勢力とホタン勢力間の交渉の過程など、カシュガルで活動に携わった当事者にしか知り得ない貴重な情報が含まれており、その資料的価値は高い。回想という本書の資料的性格から、事実関係については他史料との比較検討が必須であるが、これらの情報は東トルキスタン共和国成立のプロセスを別の角度から再検討する材料の一つとなることが期待できる。

更に、著者が西トルキスタン出身者であるという点で、本書が従来利用されてきた東トルキスタンの歴史関連資料とは一線を画していることを指摘したい。先行研究では、東トルキスタン共和国の設立に西トルキスタン出身者が少なからず関わっていたことが指摘されていたが、資料的制約からその詳細はほとんど明らかにされていない。本書では著者の同郷者であるフェルガナ出身者の活動が詳細に記されているほか、巻末には東トルキスタン共和国設立に関わった西トルキスタン出身者の人名、出身地、役職等のリストも付記されており、彼ら西トルキスタン出身者の出自や背景、民族運動に参加した動機、また共和国の設立において彼らが果たした役割などについてある程度明らかにすることも可能であろう。

総じて言えば、本書は東トルキスタンにおける民族独立運動に直接携わった西トルキスタン出身者による回想という点で極めてユニークな史料であり、いまだ研究上の空白の多い20世紀前半の東トルキスタン史を再構築するために必要な材料の一端を提供するものであると考えられる。

(中央大学大学院文学研究科博士課程)